

「幼稚園教諭・保育士等に係る研修の考え方」（たたき台）

4 研修の考え方

人材の育成を進めていくに当たっては、目指すべき保育者の姿を明確にするとともに、それに必要となる資質・能力を養成していくための研修が重要となります。

そのため、全ての幼稚園教諭・保育士等が、設定されたキャリアステージに応じて、保育に必要な知識や技術を身に付けるのみならず、様々な課題に対して積極的に向き合い、一人一人の子どもにとって最善の保育を提供するため、絶えず保育者としての意識の向上が図れるような研修を実施していく必要があります。

また、これまでは、幼稚園、保育園といった園の種類や、所属する団体ごとに実施されていた研修についても、目指すべき保育者としての保育が実践できるよう体系を整理し、より効果的な研修ができるよう見直しを進めます。

(1) 研修に関する現状と課題

資質・能力を高めていくための研修には、保育現場を離れて行う研修（外部研修〔Off-JT〕）、各園において保育実践の中で行う研修（職場内研修〔OJT〕）があります。また、研修を生かして、自らが学ぶものとして、自己研鑽があります。

① 外部研修

- ・ 主として、国・地方自治体、関係団体等が実施
- ・ 経験年数や役職に応じて、または、専門的な分野に関して、必要となる知識や理論などを学ぶ。

〔課題〕

- ・ 複数の実施主体により、類似した内容の研修が行われている。
- ・ 園等が加盟する団体や、職員の職種により、参加できる研修が限定されている。
また、団体に加盟していない小規模の園等は、研修機会が少ない。
- ・ 小規模な園等においては、職員体制に余裕がないことなどから、職員が保育現場を離れて外部で行われる研修に参加することが困難である。
- ・ 保育時間の長い保育園等では、勤務時間内に職員全員が一斉に研修に参加することが困難である。
- ・ 園等ごとに規模や体制等が異なることから、全ての園等が研修に関する企画・立案を行える状況にない。

② 職場内研修

- ・ 主として、各園等が実施
- ・ 保育を実践していく中で、必要となる技術やノウハウなどを学ぶ。

〔課題〕

- ・ 園等ごとに実施方法や実施内容にばらつきがある。
- ・ 職員の少ない園や経験年数の浅い職員が多い園では、職場内研修の指導者となる職員の確保が困難である。
- ・ 職場内研修の指導者となる職員の養成が必要となる。

(2) 見直し方針

全ての子どもにとって質の高い幼児教育・保育を提供するという観点から、これらの課題に対応していくため、幼稚園教諭・保育士等を対象とした研修の実施方法等の見直しを進めます。

そのためには、まず、所属する園等に寄らず、外部研修と職場内研修を組み合わせることで、全ての幼稚園教諭・保育士等が必要な研修を受けられるようにしていくことが必要です。

また、幼稚園教諭・保育士等が、意欲的に学べるよう、自らの経験や職責に応じて選べる研修としていくことが重要です。

さらには、研修の目的や養成すべき資質・能力などを明確にすることで、幼稚園教諭・保育士等が学び続けられるような研修とし、研修に対する保育者の意識を高めていく必要があります。

(3) 研修体系の構築

上記の方針を踏まえ、全ての幼稚園教諭・保育士等が、目指すべき保育者としての保育を実践できるよう、必要となる研修を、それぞれのキャリアステージに応じて、継続的に受けられる研修体系としていくことを目指します。

そのため、本市や関係団体等で実施している外部研修の体系を整理し、これまでは研修対象としていなかった保育者の受入れや類似した研修の合同での実施などを進めたうえで、新たな研修体系を構築することについても検討を進めます。また、乳幼児教育保育アドバイザーを活用した職場内研修の充実を図ります。